



図書館 だより

図書館 ☎69・3706

今回は、職員研修の講師としてお招きした稲葉製綱株式会社専務稲葉千穂子さんにお話を伺いました。

■最近読んだ本でおすすめの本はありますか？



朝倉千恵子さんの『信頼関係の作り方』。この本は、企業の人材育成を目的とする研修・講演を全国で実施されている研修会社の女性社長さんが書かれた本です。職場だけでなく家庭でも、すぐに生かせることがたくさん書かれている本だなと思いました。



『信頼関係の作り方』
朝倉千恵子／著
フレスト出版／出版

■稲葉さんにとって本はどんな存在ですか？

本は、より良い人生を歩んでいくために私を導いてくれるものだと思います。私は、ほとんどのケースを本で解決していると言っても過言ではないくらい。「こういう時どうしたら良いだろう？」って時は、自分が今必要としている本を探しに行こうかなって思います。書店に行ったり、最近は図書館にも来たりして、その時のインスピレーションというか、本当に直感で出会いを楽しむスタイルをとっています。

■こうすると図書館がもっと良くなるんじゃないかと思うことはありますか？

まだまだ私、図書館に何があるか探し切れてないんですよ。「あ、こんな所にこんな本あるんだ！」っていう発見、今は「セレンディピティ」っていうのかな。そういう何か探して喜ぶ喜びがあるけれども、どこにどんな本があるかもちょっと探しやすいと思ったら、そういう喜びが増えるのかなっていう気もしましたね。

おすすめの本の紹介や、図書館への貴重なご意見をしていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

「魚の引越」

■回遊水槽ついに撤去

老朽化して撤去された回遊水槽は、37年間というとても長い間活躍した水槽でした。親に連れられてこの水槽を眺めていた少年少女が今は親になり、今度は自分の子どもを連れて回遊水槽を眺めている、というちょっとした感動的なエピソードもありました。通常の水槽の寿命がせいぜい20年といわれているのに、37年という年数は驚きです。おかしいくらいです。

■麻酔でお引越

撤去に伴い、水槽に入っている魚の引越し大作戦を行いました。1月17日。覚えていますが、大雪だった日です。寒かったです。約30匹の巨大魚の引越。ペングインのように整列して引越しが、そうはいかない。そのまま運ぶとプロレスラーであつても太い尾びれの一振りですぐに飛ぶように大流血するほどの力。そのため麻酔をかけて魚を運びました。魚の麻酔は、水中に麻酔薬を



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

溶かし込み、それを魚がエラから吸収して眠るという方法で行います。しかし人間の手術などでも麻酔は気を使うように、麻酔がかかりすぎると魚は永遠に寝てしまう（死亡）し、かかりが浅いと強烈に暴れて飼育員が悶絶死亡する。どちらも死亡しない平和解決的な境界線を狙わねばならず、水槽の水量や魚の体重や体調、麻酔薬の量などを慎重に計算します。

■早く！早く運べ！

飼育員総出で段取りや持ち場、役割の確認をして、麻酔薬を投入。数分で体の小さいものから順に効き始めます。泳ぎはフラフラになり呼吸数が減る。よくわからないがなんとなく顔色が悪くなり目はうつろ。慎重に観察して、このよ

うな状態になったら特注の担架に乗せてすばやく水から上げ、引越し先の水槽へ若手運搬飼育員が猛烈に走って運びます。時間との勝負。遅いとそのまま永遠に寝てしまうのですから。

最後に140cm体重30kg以上の水槽の主だった魚を4人がかりで運び、全員無事に引越し完了。何往復も水槽間を走ったり、重い魚を持ち上げたりしたため、飼育員は全員力を使い果たして放心状態。

■新装開館にご期待を

3月18日(金)に水族館は水槽や展示を入れ替えリニューアルオープンします。しかし蒲郡の子どもとその保護者には17日(木)の午後から超大サービス先行オープンがあります。詳細は最後のページで。